

◆漁業士活用育成事業

平成21年度青年漁業士養成講座

水産業改良普及センター 牧野清人

平成21年11月25日、本部町の県栽培漁業センター2階会議室にて、青年漁業士養成講座が開催された。本年度の青年漁業士候補者は、金武漁協所属でモズク養殖を主に行っている屋比久健氏であった。参加者は普及センター職員4名、漁業士2名であった。普及センター系数所長より挨拶があり、漁業士制度について、また、普及指導機関との関わりについて説明がなされた。続いて、港川漁協所属の上原清秀指導漁業士ならびに本部漁協所属の我部政祐名誉指導漁業士から漁船漁業、モズク養殖業に関してそれぞれの体験談を交えながら話して頂いた。他の漁業者等との連携を大事にし、無線などでコミュニケーションを取ることや、それぞれの漁場における暗黙のルールやマナーを大事にすること、他の漁業者の些細な行動にも気を配り、常に技術の探求、勉強を怠らないこと、試行錯誤を繰り返し、独自の技術を磨くことなど、非常に勉強になるお話をしていただいた。また、近年海上における事故が多くなっていることや御自身の経験を挙げて、いかなる時でも海の怖さを肝に銘じて安全操業に勤めることの重要性を説明された。我部名誉指導漁業士からは漁業経歴についての説明やモズク養殖に関するこれまでの技術開発についての説明をいただいた。他、ご自身のモズク種の培養室を案内していただき、寒天培養やフラスコ培養、種付け技術の説明をいただいた。その中で、専門の研究員や普及員の指導を受けることも大事であるが、他の方法も無いか試したり、独自でより良い手法を新しく開発してゆくことで漁業者としての喜びを実感できるというお話があり、屋比久氏も非常に勉強になったようであった。屋比久氏はモズク養殖でこれまで3年の経験があるが、独

自で国外などへの販路開拓を試みたり、観光客にモズクの体験収穫をさせるなど、他の漁業者とともに養殖業以外でも儲かる方法を模索しているとのことで、現在のような不況の時期に新しい沖縄型漁業の礎を築かれることを期待したい。



受講者の屋比久健氏



漁船漁業についてご説明頂いた上原指導漁業士



モズク養殖に関してご教授頂いた
我部名誉指導漁業士（右）